



北見ロータリークラブ週報

●創立/1937年9月30日 ●事務所/北二条ビル 3階 302号 ☎25-2824 ●例会日/毎週水曜日 ●例会場所/ホテル黒部

HPアドレス <http://www.kitamirc.jp>

第 3371 回例会・2022 年 6 月 15 日

本日のプログラム

「年次総会」

2021～2022年度国際ロータリーテーマ

『奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために』

R. I. 会長 シェカール・メータ

第 3370 回例会（6月8日）の記録

ロータリーソング 我等の生業

ビジター 北見東RC 堀江 篤 様

会長挨拶 主藤会長

皆さんこんにちは。6月という事で最終月となっております。この時期は国際大会があり、今年はヒューストンで4日から8日まで行われています。2年前はハワイにてバーチャル形式で行われ、昨年は台北でリモートでの開催でした。本年度はリアルに開催され、日本からも沢山のロータリアンが参加しているとお聞きしております。

ヒューストンと言えばNASA（アメリカ航空宇宙局）。1957年にソ連の人工衛星スプートニク1号の打ち上げ成功により、アメリカは自国の宇宙開発の遅れを痛感してNASAを発足させたと聞いております。以来人工衛星は各国で打ち上げられ、地球の周りには3,500機もの衛星が飛び交っています。今や人工衛星から来る情報はナビゲーションシステムや交通インフラ、天気予報、自動車の自動運転等生活には欠かせないものとなっております。悲しい事にロシアとウクライナの戦争でもこの衛星からの情報が活用され、武器や情報戦線に欠かせない状況となっております。先日日本のJAXA（宇宙航空研究開発機構）が打ち上げた小惑星探査機はやぶさ2号が、小惑星リュウグウから持ち帰った土からアミノ酸が出てきたという報道があり、地球の生命が宇宙由来といった仮説を後押しするような説が出てきたと聞いております。科学技術の進歩というのは人類の進歩に欠かせない、また輝く歴史の裏には戦争にも使われるという暗い過去の歴史もあるという風を感じております。この2年位でしょうか？コロナ禍で皆さんも自粛されていた期間があったかと思えます。その中で少し私も読書の量が増えて、ユヴァル・ノア・ハラリというイスラエルの方の『サピエンス全史』というのを読ませて頂きました。人類の祖先であるホモサピエンスが現代に至るまでの進化過程を綴ったものです。今起こっているウクライナの戦争、プーチンの頭の中に残るソ連時代の冷戦構造等、この作者はどのような続編を書くのかと興味深く思っている所でございます。

ここで残念なお話ですが、本年度をもって米山会員、潮田会員の2名が一身上の都合で退会されるという事で退会届が提出されており、6月1日の理事会において承認を頂いております事をご報告致します。本日も宜しくお願い致します。



幹事報告 田巻幹事

1. 前回の週報において新入会員の米津会員のスポンサーが田尾会員となっておりが蛇名会員の間違いでございますので訂正願います。
2. 次週は年次報告となっております。報告をされる担当の委員長様は用意の方をお願い致します。
3. 米津知裕会員は親睦活動委員会の配属となります。
4. 北海道クリーン作戦北見市推進会議から先日の北海道クリーン作戦のお礼が来ております。
5. 本日年次活動報告書の締切日となっておりますので未提出の委員長様は提出の程宜しくお願い致します。



プログラム 会員卓話 「ライラについて」

下元 陽司 ローターアクト副委員長

ライラセミナーは主に18歳から30歳の若手に対して今あるリーダーシップや自己啓発といったものを研修し



「ロータリーの素晴らしさを広めましょう」

地区ガバナー 漆 崎 隆

てこれからの地域社会で活躍して頂く、そういった思いで進めております。これは2500地区だけではなくR Iとして全世界での事業であります。今18歳と言いましたが、R Iとしては14歳から30歳までというのが正式なものであり、日本としては18歳という区切りを付けているという訳でございます。現在の日本では34地区の中で、我々の2500地区も含めて27地区でライラが開催されています。開催期間ですが、ここ数年で1泊2日になっておりますが、元々は2泊3日で開催しておりました。このライラについては他の地区でも色々と批判等が出ており、やはり最低でも2泊3日でないライラをやる意義がないという声があります。ただ私達北見RCとしては2泊3日というものはとても負担です。実際の所は各クラブの会員さん達の社員さんを行かして頂いているというのが大半の実情ですので、3日休ませるといのは大変です。我々ロータリアンもホストであり、カウンセラーとしての立場がありますが、どちらにしても2～3日会社を空けるのは大変だという事情で昨今は1泊2日の開催が主流となっております。

ライラを行う効果ですけれども、コミュニケーションで問題解決のスキルを磨く、学校や職場で活躍出来るリーダーになるコツを発見する、仲間との交流を通じて自分の可能性を発見し行動に繋げる、楽しみながら生涯続ける。これは所謂仲間作りという事であり、どちらかという参加者は会社に入社して1、2年目の新入社員さんとか若手の方が多いという事で、中々人前に入る事もない若い社員さん達がこのライラに出て初めて人前でスピーチを試みたり、色んな会議でディスカッションをする事で色んな気づきを育て成長して頂くという所です。我々カウンセラーとなるロータリアンとしては、まず各クラブで参加をお願いして来て貰うのですが、ローターアクトの担当委員長であり青少年委員長でありと、何かしら担当ラインの委員長や副委員長が同伴として来て頂きます。そのカウンセラーが若者のリーダーシップを磨き地域に貢献している若者を表彰する、そして若者の心の生涯に亘って奉仕の精神を育みロータリーを通じて奉仕の機会を導く事、若者のリーダーシップの育成を支持するとともにロータリーで青少年奉仕を実践するという、若者達に模範となる立場として指導をするというカウンセラーの役割があります。ホストクラブの北見ですけれども、この役をやって各地方から来るロータリアンの方が大体途中でいなくなります。飲みに行ったりして親睦を深めるというのも大事な事だと思いますので、北見に来て貰って色んな思い出を作ってもらえればなと思っております。

最後にこのライラセミナーについて、個人的な主観ではありますが『およげ！たいやきくん』という歌があります。たい焼きがたい焼きやさんを脱走して海に逃亡したという内容です。この『およげ！たいやきくん』の歌詞の意味がライラセミナーと重なる所があるなと思えます。『およげ！たいやきくん』はサラリーマンもしくは僕等みたいなこういう中途半端な年齢で会社を運営している、もう働く事に疲れて逃げ出したいよ。サラリーマンもライラセミナーに来る年代というのは、大体北見は20歳から30歳で、入社して1年、2年、3年。一番会社を辞めたがる年だと思うのです。僕のライラの教えた子達も何名か会社を辞めています。やはり一番会社を辞める年齢が多く、会社の上司や社長に嫌気がさしている年齢かなと思えます。たいやきくんもそうであるように、もう逃げ出したいという中でただライラに出てこう思った方の話も聞いています。辞める寸前だったけれども、ライラを受講して同年代がネクタイをして、隣で立派にスピーチをしていると、「何で同じ年でこいつはこんなに喋れるんだ？何で頭が良いんだ？僕もああいう風になりたい。どうかうちの会社で僕の作業着を脱がせてもらって、ネクタイを締めて、先輩達みたいに営業であったり部長とか課長とか言われてみたい」という子がいたという話を聞きました。私も当時うちの社員を行かせた訳ですけれども、年齢的に21歳や22歳とかではやはりカルチャーショックを非常に受け易いということで、聞いた中では会社を辞めようと思っただけけれども、ライラに出てみて頑張りたいと思った。むしろこんな自分を試してみたい。僕も頑張りたいというような、そういった大変素晴らしい効果がある事に私も気づきました。ライラセミナーを受講させる一つの切欠として皆様もご検討頂ければなと思えます。私も20代の社員に辞められたら困りますし、非常に貴重な存在でございますので、このライラに出て辞めようとする社員を捉まえるという切欠になれば本当に北見開催も意義のあるものだと思います。これから皆様をお願いしていきますけれども、例年北見は3名出ていてお願いする所も決まっておりますが、そうではなく、そういった社員さんがいましたらどうか参加のお願いをしたいなと思えます。それでは9月3日・4日に開催致しますので皆様には色々をお願いをするかと思えます。どうか宜しくお願い致します。



出席報告 帰山出席委員長

出席報告	例会日	会員総数	出席免除	総出席計算数	例会出席免除者	事前メークアップ	事後メークアップ	確定計算出席数	出席率
計 算 式		A	B	C	D	E	F	C+E+F	$\frac{C+E+F}{A+B} \times 100$
本日	6/8	58	6	36	1	1	-	37	69.811%

【次回6月22日】 「最終夜間例会」

編集後記 最終夜間例会ではどのような年だったか振り返りながら、次年度に生かせるようにしていきたいです。(Y.T)

2021～2022年度 北見R.C.活動方針

原点回帰・みらいへの継承

国際奉仕とは

ロータリーの第四奉仕部門で、ロータリアンが国際理解、親善、平和を推進するために行っている様々な事が国際奉仕です。

2021～2022年度 北見RC

●会長/主藤 雅裕

●幹事/田巻 順子

●週報編集/佐々木雄一